

令和4年度

岩倉中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、身に付いたことを生かして課題解決を図ろうとする生徒の育成
- 自ら学習計画を立て、意欲的に学習しようとする生徒の育成
- 思考力・判断力・表現力を高めるための授業実践
- 個に応じた指導の改善とICT機器の活用等の指導の改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
平田 京子	校長 江藤 将 教頭 重本 文代 教務 佐藤 秀樹 1学年主任 松原 梢 2学年主任・研修主任 平田 京子 3学年主任 増田 春香

校長

江藤 将

【小中連携または中高連携における共通の取組】

子どもの変容を生み出す授業づくり ～『振り返り』を中心として～

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な学習態度で、こつこつ素直に努力し、課題にも熱心に取り組むことができる。 ●学力の二極化傾向が見られるため、基礎・基本の定着の徹底や発展的な課題に取り組む機会を増やす必要がある。	・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・学習時間を確保し、主体的に家庭学習に取り組む生徒 ・課題解決をめざし、粘り強く課題に取り組める生徒	・各教科で小テストを実施し、理解度を把握するとともに、基礎学力が定着するよう個別指導や授業研究を行う。 ・「家庭学習の友」や「家庭学習の手引き」を使い、家庭の協力を得ながら学習ルールを明確にする。 ・朝の学習の時間を活用して、読書で読解力を高め、ドリル等を使用し、教科の基礎・基本の定着を図る。	・法則・公式・定理・基本事項などの意味を、曖昧にせず確実に理解できるように取り組む習慣を身に付けさせる。 ・学習面で、自分の目標と現状を把握することで、今の自分の課題を考えさせる。	・家庭学習の時間を確保し、課題を期限までに提出できるよう心がけている生徒が増えている。 ・解けなかった問題を解けるように繰り返し練習したり、考えたりできる生徒が増えた。	・生徒間で学習に対する意欲の差があるので、学習することの意義に気づかせ、個々に応じた指導で基礎・基本の徹底を図る。 ・学習に対して苦手意識のある生徒に、達成感が感じられるよう、個々に応じた課題を出すよう心掛ける。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題を解決するために、自分の考えをまとめたり、表現を工夫したりして取り組もうとしている。 ●自分の考えや意見を的確に伝えることに課題が見られるため、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につける必要がある。また、積極的に自分の考えを発表することに苦手意識をもっている生徒もいる。	・授業中、目的に応じ根拠や理由を明確にし、ながら自分の意見の表明ができる生徒 ・相手の発言の意図を捉えながら聞いたうえで、相手の考えを受け入れ、自分の考えを確認したり、さらに深めたりできる生徒 ・身についた知識や技能を課題解決に生かすことができる生徒	・授業中、タブレット等のICT機器、ホワイトボード、ペア学習や思考ツール等を活用し、効果的に意見を交換する授業展開の工夫をする。 ・学習終了時に、自己評価表を用いたり、各学期末に学習アンケートを実施したりして、生徒個々に学習の振り返りをさせる。 ・知識や技能を生かすことができる課題解決の機会を設定する。	・話し合い活動や「なぜ?」「どうして?」と理由を考えさせる授業を取り入れた授業を増やす。 ・自分の考えを説明するときのポイントなどを知らせ、タブレット等も活用して、効率よく説明できる力をつけるよう授業研究をする。	・ペア学習や班活動などで、自分の意見を相手に伝える機会を増やしたことで、自分の考えを伝え合ったり、教え合いをしたりすることがスムーズに行えるようになった。	・授業の中で、自分が疑問に思ったことをそのままにせず、教え合いや話し合いができる時間を確保し、自分の考えを伝え合う習慣を身につけさせる。 ・自分の考えを、相手に分かりやすくまとめたり、伝えたりするための手段として、ICT機器の活用を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の学習や家庭での自主勉強ノートには真面目な態度で主体的に取り組んでいる。 ●家庭学習の習慣が十分身につけておらず、自分の将来を見据えた学習への取組ができていないため、主体的に学習に取り組む姿勢が身につけていない生徒がいる。	・自己実現のために、今、自分が成すべきことをしっかり考え、学ぶことの意義を見出し、実行できる生徒 ・自己の課題を見つけ、課題解決の方法を学ぶ中で、学習することの楽しさ、学ぶことの喜びを感じ、自分を成長させるために努力することができる生徒	・「キャリア・パスポート」「家庭学習の友」「家庭学習の手引き」「生活時間チェック表」等を効果的に活用し、保護者との連携を図りながら、将来の職業選択を視野に家庭でも課題解決学習の習慣化を図る。 ・本校の学習目標である「三びきのカエル(かんガエル・まちガエル・ふりカエル)」を常に意識した授業展開を考える。 ・授業改善チェックリストを活用し、授業の『振り返り』を行い問題点を改善する。	・毎日、自分の家庭生活を振り返るとともに、授業でも、振り返りを行い目標を持って授業に臨めるよう、意識改革を図る。 ・保護者の協力を得るためにも、啓発活動として、学校での学力向上のための取り組みを伝える。	・朝学習での内容を工夫し、ドリル学習と読書に意欲的に取り組むことができていた。 ・家庭学習は習慣化できている生徒と、できていない生徒の学習時間に差があるので、最低1時間は家庭学習の時間を確保できるよう意識付けをする必要がある。 ・自主勉強ノートを効率的に活用できている生徒が増えてきた。	・毎授業後の『振り返り』や、月ごとの『振り返り』を行うことで、学習に対して自己分析を行い、目標をもって学習に取り組む姿勢を育てていきたい。 ・自分の将来の職業選択を意識した、学習への取り組みができるようサポートする。

令和4年度 学力向上ロードマップ

